知性を磨き，21世紀にはばたけ

生物生産学部長　角田俊平

花開き，新たな希望に胸ふくらむ春の季節，新入生の諸君，入学おめでとう。この春もまた新入生の諸君を迎えることができて喜びにたえない。

諸君一人一人がいかなる考えのもとに広島大学を選び，生物生産学部を志望したかは分らないが，この学部に入学してこれから4年間，あるいはそれ以上，伸び盛りの青春時代をわれわれとともに過ごすことに深い縁を感じ，親愛の情を覚える。

諸君は競争原理が過剰に支配している現今の社会環境のなかにあって，一定の知識を修得し，学力をつけ，入試という一つの競争に打ちかってここに入学し，重要な基礎を築いたことになる。しかし競争にはげんだことによって，おろそかになったものがあるかも知れない。あるいはそのために手をつけることができなかったことがあるかも知れない。だからといって今後ただただキャンパス・ライフをエンジョイするのみでは，諸君の人生は実らない。大学での学問は底が深い。むさぼるように学習すれば，限りなく知的な歓びを覚えることができる。大学は自己発現の場であり，人間を磨く場でもある。真しな大学生活によって，人物識見がねられ，個性豊かな信頼に足る人格が形成され，そして全人的に成長するであろう。

少なくともこれからの4年間は生涯のうちで最も充実した時間をもつことができるはずである。そうした学生時代にこそなすべきことの一つに読書があげられる。自らの専門性を深めるために，また技術を修得するために，関係する専門書を読まねばなるまい。知的好奇心を満足させるための読書も必要である。さらに必要なことは人格形成のために，古典にせよ近代の書物にせよ，評価されている文芸作品，思想・哲学書などをひもとくことである。読みごたえのある名作にふれているうちに，感受力，構想力などが養われるであろう。知識，理解力は大学の講義，ゼミ，実験などによって身につくと思うが，人間の哀歓，情緒，熱情などの感性，さらに問題を展開し，解決する力量は読書によって培われる。知的認識につながる書物の熟読によって，人世観，社会観，世界観がかん養される。知的欲求の最もおう盛な青春時代，学生時代にこそ，読書にもエネルギーを傾注すべきであり，そのことによって得るところは極めて大きいはずである。

諸君は21世紀のわが国の社会の命運を担って行くべき世代である。諸君の人生を貫く原理として，自由独立の精神が培われるか否かは，これからの大学における知性の錬磨にかかっている。世界はいま大きな転機に立っている。かかる情勢のなかで，諸君が担い得る力量を充実させ，不断の努力を積み重ねることがまずもって肝要である。これから学ばんとする生物科学に関する専門性，これから培われるであろう豊かな人間性は必ず21世紀において重要な役割を担うはずである。

昨年，101歳の高齢で亡くなられ，清新で謙虚な独自の画風をもって知られた日本画壇の巨匠，奥村土牛さんの号は寒山の詩“土牛，石田を耕す”からだといわれる。牛が荒れ地を根気よく耕すように，諸君もたゆまず精進されんことを願う。